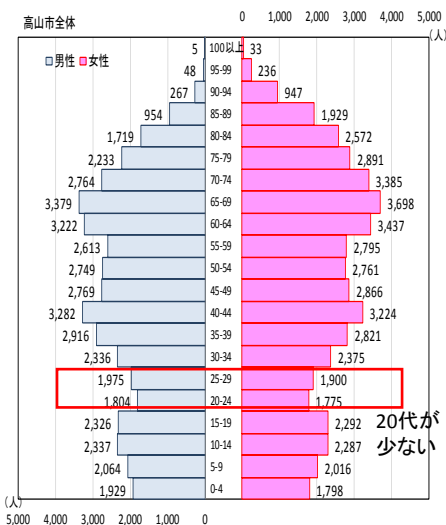


人口に関する分析

総人口は平成12(2000)年の**97,023人**をピークに減少。平成52(2040)年には**69,437人**になると予測されている ※平成22(2010)年92,747人比(約25%減)

◆特徴的な課題

- ・ 若年層(10歳代後半～20歳代前半)が進学・就職で市外へ転出し、その後戻ってくる者が少なく「社会減」も進んでいる。
- ・ 市街地近郊と郊外で高齢化、人口減少の進み方が異なる。郊外においては、人口減少、高齢化が深刻な地域もある。
- ・ 死亡数が出生数を上回る「自然減」が進んでいる。
- ・ 今後、人口は減少の一途を辿る。労働人口、財政、地域基盤等に影響が生じる可能性がある。



将来展望に関する分析

◆産業

- ・ 就業者数の多い産業は、「卸売業、小売業」、「製造業」、「農業、林業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」及び「建設業」である。
- ・ なお、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」は、女性の非正規労働者が多い状況となっている。
- ・ 特に、市外から資金を獲得する力がある産業は、「宿泊業」、「製造業(主に医薬品、家具・装備品)」である。
- ・ 市民の所得水準は、県内他地域より低い傾向にある。

◆市民の希望～市民アンケート～

【結婚・出産・子育て】 対象：満20歳以上～45歳未満の市民2,000名(回答数：689件)

- ・ 未婚者の結婚希望は非常に高い。
- ・ 最終的に持ちたい子どもの人数は**2.09人**。理想とする子どもの人数は**2.64人**。
- ・ 子育てしやすさについては、評価が高い。特に子育て世代が高評価。

【地方移住】 対象：岐阜県外から本市に3年以内に移住してきた者1,000名(回答数：314件)

- ・ IJターン時の不安は「知り合いがいないこと」、Uターン時の不安は「仕事」
- ・ 移住者(IJターン・Uターン)は、移住後の生活全般の満足度は高い。
- ・ しかし、「収入」のみが悪化した者が多い。

【高校生の地元就職意向】 対象：飛騨地域の高校に通う本市在住の高校3年生(回答数788件)

- ・ 就職希望者は3割、進学希望者は7割。
- ・ 就職希望者のうち市内就職希望は約6割、進学希望者のうち市内就職希望は約3割
- ・ 進学希望者を含め全体のうち約4割の高校生が市内就職希望。

将来展望

目指すべき将来の方向

方向性1：人口減少に歯止めをかける

○しごとの創出

- ・ 地元出身者の雇用の受け皿となり、地域内に資金をもたらす高付加価値産業の創出
- ・ 観光産業のさらなる発展
- ・ 創業支援

○結婚・出産・子育てしやすい環境づくり

○移住・定住の促進

方向性2：人口減少社会に対応する

○安心して暮らしていける環境を維持・継続

- ・ 支え合えるコミュニティとしての協働のまちづくり
- ・ 地域の特性、魅力を活かしたビジネスの創出

○多様な働き方を実現する環境づくり

人口の将来展望

- 自然増：合計特殊出生率を平成52(2040)年までに2.1まで上昇
- 社会増：転入者数を平成52(2040)年までに毎年現在の10%増

2040年の人口

